

◆ 平成26年度活動報告シート ◆

団体名：認定NPO法人 水のフォルム

19A-29

代表者：代表 藤原悌子

URL : <http://www.w-forum.jp>

1. 活動が必要とされた状況

県土の7割に関わる荒川を下りながら、水を通して埼玉の歴史・文化を見ていますが、その第3弾。現在入間川は荒川の最大支流ですが、その成り立ちは荒川・利根川流域とは一線を画し、県内河川の位置付けとしては複雑です。

水系を一つひとつ見ながら、その中心にある川越についても整理しました。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

<実施時期> 平成28年度前半～資料収集。 後半に原稿作成等まとめ。

<参加人数> 筆者、校正人員として数名。

<活動内容> 特集記事では、入間川水系の自然・歴史・文化を紹介。

ガイドブックにあるような内容は省き、少し専門的ですが県民が知っておきたい内容をまとめました。

実践活動報告では、16年目となる見沼田んぼでの里地里山保全活動とそこから考えること。そして4年目になる秩父大滝との「上下流交流報告」。



『水のFORUM』Vol. 16より

3. 活動の成果

活動に不可欠な理念や思想のインキュベータ的役割を担う機関誌『水のFORUM』は、国会図書館や都中央図書館(旧日比谷図書館)にコーナーが設けられ、各号収蔵されています。NPOの発行物でこのような扱いは珍しいそうです。

当機関誌を継続発行することで、それら図書館で読まれて問い合わせもありますし、既刊誌を読むことで未だに新規会員が増えています。

また農業用水と河川をつなぐ必要性が言われながらもなかなか実現しませんが、水のフォルムの提案で双方が語り合う場が出来るなど、一歩ずつ制度改革の歩み寄りが見られます。

4. 今後に残された課題

残る17～20号、そして合冊本まで5年かかり、どこまで行けるか分かりませんが、なんとか目的を達成したいと考えています。